

平和の大切さを伝える紙芝居

永井隆博士の平和のバラ

広島・長崎原爆都市青年友好平和のバラ保存委員会副会長
広島ユネスコ協会理事 藤井孝行



右から二番目が永井徳三郎氏

広島・長崎の被爆都市間で、平和を願う青年交流が昭和 24 年に開催されました。その際、故永井隆博士（昭和 26 年没）は平和を願う交流に思い寄せて、自宅の庭のバラ一株を広島青年団体に寄贈されました。そのバラは今も広島市役所本庁舎玄関前と平和大通りに現存しています。

今なお現存している理由は、平和大通りのバラが弱っているとの市民からの指摘があり、故正本良忠さん（平成 27 年没）が関係者に呼びかけて広島・長崎原爆都市青年友好平和のバラ保存委員会を発足させたことにあります。私も以前から青年活動を行っていたことから、この委員会に参加しました。

委員会は、弱っていたバラの環境整備やバラの前に経緯を明記した説明版（日本語版・英語版）を設置することとし、市民に募金を呼びかけてこれを実現させました。また、これからの時代を担う子ども達に平和への啓発を行うための紙芝居を作成することとして、実績のある「そらの会」に制作をお願いしました。

そらの会は日本画家宮郷敦子氏を代表とし、80 歳代から小学生までの幅広い年齢層の会

員で成り立っています。そうした会員の話し合いを基に、戦争体験者の思いを戦争を知らない子どもたちの心に響かせるために研究を重ね、バラの妖精を用いるなど独特の工夫によりシナリオや原画作成を行い、平成 28 年 6 月に完成しました。

その完成披露を平成 28 年 7 月 5 日の午前 10 時から、中区大手町平和のバラ植栽地（ホテルサンルート広島の北側）で広島市立本川小学校 4 年生の皆さんと一緒に行いました。この時、作成した紙芝居を広島市立子ども図書館に寄贈しました。



同年 8 月 2 日の朝早く、広島を出た会員 5 名は長崎市永井隆記念館に行き、館長である永井博士の孫にあたる永井徳三郎さんに紙芝居を手渡し、同記念館に寄贈しました。また、後日には島根県雲南市にある永井隆記念館にも遺贈する予定です。

私たちはこの紙芝居により、より多くの子どもたちに平和の大切さを学んでほしいと願っています。